利用者サービスに関するアンケート調査結果より

熊救協調査・研究委員会では平成11年に実施した利用者サービスに関するアンケート調査を今年6月に再度実施致しました。調査項目は一部追加しました。前回のアンケート結果後、熊救協として利用者支援に関する指針を作成して7年経過し、今回の調査結果をまとめてみました。（別紙資料参照）

○性別に関して

平成11年から18年にかけて各施設とも入所者の男女比も変わりました。回答可能な男性の比率が増えており、精神障害者の入所増も要因かと思われます。

○年齢に関して

年齢・入所期間を比較して入所時点での高齢化が進んでいるのではないかと思われます。

○入所期間に関して

特に大きな変化はなく比較できませんでした。変化がないことから考えられるのは、生活保護法の他法優先性或いは通過施設としての機能が生かされていないのではと思われます。

○私物の持ち込みに関して

前回のアンケート調査時より新規利用者については自己判断できる人が増えています。また、施設の捉え方も変化してきたのではないかと考えられます。しかしハード面での問題は以前と変わりません。

○プライバシーに関して

ハード面では６施設とも大きな変化はありませんが、満足と感じている利用者が減ったことは権利意識をもてる人や意思表示できる人が増えてきているのではないかと思われます。

○買い物・外出に関して

金銭管理ができない人、危険回避ができない人、施設の立地条件で近隣に商店がないなどの理由で外出できない人が多いのではないかと思われます。

○行事・レクリエーションに関して

個別意識が高くなっていることから、施設側の創意工夫が必要と思われます。

○呼称、職員の言葉遣いに関して

以前に比べると大分よくなっています。職員の意識付けができているのではないかと思われます。

○職員の支援や困った時の相談相手、不当な制限等に関して

相談相手がいないとする人の比率が若干下がり、職員へ相談する比率が上がっています。「どちらともいえない」が倍増していることは相手が理解できるような働きかけをするコミュニケーションスキルが職員に求められているのではないかと思われます。不当な制限・不満・疑問に関する項目は、全体的にみて減少傾向ですが多少でもあってはならないことです。特に金銭管理のことで不満や疑問があがっています。相手が理解できるような説明や関わりが一層必要と思われます。

○苦情に関して

法が施行されて６年経過しますが、「言いにくい」という人が３割ほどあることは真摯に受け止め、更なる制度の周知徹底と言いやすい環境作りが必要ではないかと思われます。

○将来について

自立・社会復帰を希望している割合が多いことから今後自立支援に向けた取り組みが各施設重要であると思われます。

【熊救協2006,no.９】

2006年ももうすぐ終わろうとしています。
毎年心にゆとりを持ち利用者の方々に笑顔で接しサービス提供をしようと思っていますが、なかなか日々の仕事に追われ時には感情的になってしまい反省することもあります。
来年は私も？回目の年女!!来年こそは自分の思い描くサービスを提供できるようにいっそう努力しなければ…と思っている今日この頃です。皆様からのご意見をお寄せください。

編集：熊本県救護施設協議会
調査・研究委員会
発行：熊本県救護施設協議会

事務局：〒861-1201 熊本県菊池市泗水町吉富今寺17-1
菊池園 Tel(0968)38-2956
Fax(0968)38-6017

熊本県救護施設協議会　　2006年12月号

熊救協

【ご挨拶】

真和館施設長
藤本　和彦

皆さまはじめまして。平成18年４月に新たにオープンしました救護施設「真和館」の施設長の藤本和彦でございます。真和館職員共々どうかよろしくお願い申し上げます。

また、今回県内の多くの救護施設の皆さんに対して、このような場でご挨拶の機会を与えていただきましたことに感謝申し上げます。

さて、国の財源不足で福祉の世界が寒風に晒されている中、救護施設も１９年度はいよいよ我が身かという情勢になっております。ご承知のとおり、これまで残念ながら救護施設は、他の施設に比べ劣っているというのが前提でありましたが、今、改めて振り返ってみれば、ひょっとすると私どもの救護施設は、実は周回遅れの先頭に立っているのが実情なのかもしれません。と申しますのは、最後のセーフティーネット・最後の受け皿である救護施設の機能は、もしも福祉が切り捨てられるなら切り捨てられるほど、絶対的にも、相対的にもその重要性を増してくるのではなかろうかと考えられるからです。

私ども真和館は、やっとヨチヨチ歩きを始めたところですが、県ご当局はじめ各福祉事務所ならびに林田会長を中心とした各施設の皆さまのご指導とご協力のもと、救護施設の役割を果たすべく精一杯努力をして参りますので、末永くよろしくお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

[施設紹介]
真和館は阿蘇の外輪山の裾野、自然豊かな地に立地しています。当館では、入所の皆さまに安心した生活を送っていただくことや、入所者の自立や地域社会に開かれた施設に向けての取り組みに力を入れていきたいと思っています。

[施設の概要]

施設名称　救護施設　真和館
施設長　藤本和彦
住所　阿蘇郡西原村大字鳥子3072番地
TEL：096(279)1121　fax：096(279)1122
E-mail：*shinwakan@utopia.ocn.ne.jp*
施設認可　平成18年4月28日（入所開始）
入所定員　50名
職員数　24名
敷地面積　9，548㎡
建物の構造　鉄骨造り2階建（バリアフリー）
部屋数　1人部屋14室　2人部屋18室

施設の環境

・阿蘇外輪山裾野の丘陵地帯・熊本空港から１０分　・熊本県庁から４０分

【しらがね寮】～おしゃれクラブを新設～

女性利用者８名の希望により「ゆとりと美しさ」を求めて月に一度おしゃれクラブを行っています。
女性談話室が、リラクゼーションの場と変わり、音楽を聴きながら職員による顔のマッサージやパックを行い、最後にお待ちかねのお化粧となります。

みんなから「きれいになったね」と言われると、さらにお顔にも魅力が加わります。
またマニキュアやペディキュアで若さをアピールしています。
これからも、寮生活の生きがい、利用者の交流の場として、おしゃれクラブを続けて行きたいと思います。

【天草園】～ふれあい交流会～

運動会に替わる地域交流事業として昨年度より実施。小学生１１名・地域８０名・舞踊愛好会５名・三味線愛好会８名計１０４名の地域からの参加と、天草園利用者・職員を合わせた合計２０７名の大規模な交流会になりたいへん盛会に終わる。交流内容は、始めに１時間体育館に一堂に会し舞踊や三味線・合唱・カラオケ等を披露し楽しむ全体交流会。次にゲートボール・ニチレクボール・囲碁・将棋・花札・オセロの６グループに分け、約１時間それぞれに希望する種目と参加するグループ交流会。３番目に利用者と地域別々に行ったお楽しみ抽選会、最後にお弁当デザートバイキングによる昼食会の４つに分けて実施。全体的にとても盛会であったが、特にグループ交流会のニチレクボールは大変な盛り上がりであった。また、天草園手作りのデザートバイキングもたいへん好評で、参加者よりとても喜んでもらえた。今回の交流会により、本来の目的である親睦が十分に図られ、利用者との交流が深まり、最近釣りや散歩で地域に出かける機会が多くなっている利用者に対し、地域の理解の向上により地域における見守り等の協力が可能となり、利用者の生活環境の向上を図ることが出来たと思われる。

【千草寮】～おやつ作り～

施設内自立に向けて、５月から希望者を募って「おやつ作り」を始めました。
毎月１０名程の参加で、献立から話し合い２～３日後の実施です。出来上がりは個性のあるお菓子が並びますが、食べる時は、おいしーい！の一言につきます。

【菊池園】～二人の頑張りに期待～

自立支援への取り組みを平成16年より始め、各福祉事務所、地域コーディネーター、医療機関の協力を得て、まず最初に行ったのが小規模作業所での実習でした。

以降平成17年11月から作業所をかえてバスの利用、調理実習（食材購入含む）を開始、施設生活が長い２人にとっては「調理」そのものが初めての経験でもあり、包丁の握り方から指導が必要でした。

それから服薬管理を行い、何度も何度も失敗を繰り返し、今年12月１日から地域生活を始めた2人、まだ まだ関係者の協力が必要ではありますが２人の頑張りに期待をこめて、まずは出発進行・・・。

【銀杏寮】～起震車体験～

去る１０月１１日、熊本市消防局の指導のもと、隣接した日本郵政公社の方々と合同避難訓練と起震車体験を行いました。

銀杏寮の１階談話室から出火したという想定で通報・避難誘導を主に隣の郵政公社の敷地に避難するというものでした。また公社職員の方々も寮の出火に第二通報と避難が必要と北側敷地へ避難されました。隣にあっても日頃なかなかお会いすることがないのですが、避難後は一緒に水消火器訓練や阪神淡路大震災と同レベルの震度７を体験できる起震車訓練を行い、改めて防災意識を高める良い機会になりました。

【野坂の浦荘】～プルタブ集めて車椅子贈ろう～

日ごろより運動会などで交流を続けている田浦保育所が、北九州戸畑消防署と連携して「プルタブ（缶飲料の蓋）集めて車椅子を贈ろう」運動を続けられています。

当施設も４年前より利用者協力のもと、プルタブ収集を行い定期的に田浦保育所へ渡してきました。

９月１３日田浦保育所より車椅子１台が送られました。

園児からのプレゼントを見て利用者の方々も実感し、より一層プルタブ収集に意欲が湧いているようです。

ちなみにプルタブドラム缶12杯で車椅子１台になるとの事です。